第１０２０回教育委員会会議録概要

１　日　時　平成２７年４月８日（水）午後３時００分～

２　場　所　教育委員会室

３　出席者　吉井委員長　西野委員　清川委員　小泉委員　八田委員　林教育長
　　　　　　国久企画幹　古谷企画幹（学校教育）　松田企画幹（高校改革）
　　　　　　淵本企画幹（義務教育）　穴吹教育振興課長　田中高校教育課長
　　　　　　山元生涯学習・文化財課長　村崎教育振興課総括主任
　　　　　　山田高校教育課主任　石田高校教育課指導主事　吉田義務教育課指導主事
　　　　　　窪田生涯学習・文化財課主査

４　議　題
　日程第１　第１号議案　福井県教科用図書選定審議会委員の任命について

　日程第２　第２号議案　授業名人の任命について

５　審議事項
（１）開会宣告　午後３時００分

（２）会議録署名人の指名　西野委員　清川委員

（３）議事要録

委員長　　本日の日程第１、第１号議案については、人事案件であることから、非公開といたしたい旨発議

――――当該議案を非公開と決定――――

委員長　　日程第１、第１号議案を議題

企画幹（義務教育）　資料に基づき説明

委員長　　第１号議案について、原案に対する異議の有無を確認

――――原案どおり可決――――

委員長　　日程第２、第２号議案を議題

企画幹（高校改革）　資料に基づき説明

清川委員　　　　国語の教員が多く、社会の教員が少ないように思う。バランスを欠いているのではないか。

企画幹（高校改革）　小学校は、国語がすべての基本であるため、中心となる教科となり、どうしてもそのような形となる。今回も、社会の教員を検討したが、若干、年齢が若いということで選考されなかった。

委員長　　　　授業名人は、教材を工夫するので、学習指導要領等に縛られず、自由に授業ができるとよいと思う。

教育長　　　　今後、退職された授業名人の方に、次の教員を育てる役割を果たしていただけるような仕組みを考えていきたい。

委員長　　　　第２号議案について、原案に対する異議の有無を確認

――――原案どおり可決――――

◎報告事項

（１）女性教職員だけの教育政策研究会について

清川委員　　　　父親の子育て参加が進まないとのことであるが、どのようにしたら進むのだろうか。

教育振興課総括主任　研究会では、母親がほめても効果がなく、職場での評価が必要という意見があった。

委員長　　　　自分が子どもの頃は、水汲みから火おこし、炊飯など何でも手伝いをさせられて経験を積んだ。とにかくどんどん手伝いをさせることが大事である。また、第３日曜日の「家庭の日」をあらためて進めていくべきではないか。

西野委員　　　　父親も母親も子どものまま親になってしまっているような場合も結構多い。「親力」が必要である。

小泉委員　　　　子育てには、母性とともに父性が重要であるが、最近は、父性が欠けてきているので、子どもが父親を「おまえ」と呼ぶような信じがたいことがあるのではないか。

八田委員　　　　ＩＣＴを利用するのもよいが、親子の絆は、例えば親子がしっかりと手をつなぐなど、肉体的な触れ合いが必要ではないか。

教育長　　　　少しでも実践できることは進めていってほしいと思う。今回は、女性教職員だけの研究会として特別なものであったが、いずれは、女性の声が当

たり前に届くような社会になる必要がある。

（２）高等学校教育課程における観光科目の新設について

清川委員　　　　商業科で進めるとのことだが、観光に関わる職業に就く生徒は、どれぐらいいるのか。また、地元をよく知るという授業内容になってくると思うので、福井を発信するため、普通科でも進めてもよいのではないか。

高校教育課長　　直接、観光に関わる職業に就く生徒は、わずかである。しかし、北陸新幹線の開通や、国体など様々な行事が予定される中、いろいろなものに積極的に関わることができる人材育成を目指す。まずは、商業科で実施し、検討していきたい。

八田委員　　　　駅伝などのスポーツイベントを通じて、交流人口を多くするという考えもあると思うので､スポーツと観光という視点も取り入れていただきたい。

委員長　　　　　成果を見て、観光学科として設置することも考えられるのではないかと思う。

（３）平成２７年度福井県高等学校入学者選抜学力検査の結果について

（４）平成２７年３月県立高等学校卒業者の就職状況について

委員長　　　　　本日の会議の終了を宣告